

名古屋市生徒会サミット

2025 年度 年間報告書

名古屋市生徒会サミット2025

「つながり」
全国とつながろう

2025 年 8 月 17 日 (日)

10:00 ~ 17:00

御器所ステーションビル 5階大会議室

主催 NPO 法人教育支援協会 東海

共催 名古屋市教育委員会

後援 名古屋市立小中学校 校長会

名古屋市

公益社団法人名古屋青年会議所

詳しくは



目 次

- はじめに NPO 法人教育支援協会東海 代表理事 本多 功 2

I. 名古屋市生徒会サミット 2025 『つながり』～全国とつながろう～

- 「名古屋市生徒会サミット 2025」 実施要項 3
- これまでの活動 4
- タイムスケジュールと当日の様子 5～8
- アクションプラン発表 9～12
- 参加校の生徒会活動に関するアンケート 13～14
- 「名古屋市生徒会サミット 2025」参加校マップ 14
- ふりかえりの会 成果と課題 15

II. 輪島訪問「能登とつながる、未来へつなぐ。」

- 名古屋市生徒会サミット実行委員会「輪島訪問」 実施要項 16
- 訪問の経緯・事前活動 17～18
- 名古屋に伝える。輪島訪問記 19～25
 - 輪島朝市跡 【輪島朝市 歴史と再生の狭間で】【名古屋に向けて】
 - 白米千枚田 【小さい頃の記憶】【新たな発見】
 - ～出張輪島朝市（ワイプラザ）での取材～
 - 心の復興 —— 『なじみ希望の会』さんのお話 【なじみ希望の会】【取材を通して】
 - 『一夜千し 二木由喜美商店』さんのお話 【輪島の給食と郷土料理】【自身の思い】
 - 『珠洲焼 てんだ店』さんのお話 【被災の瞬間】【避難生活】【私の想い】
 - 『輪島塗漆器 鮎井商店』さんのお話 【地震を経験して】【復興に向けて】
 - ～輪島市の中学生・高校生との交流～
 - 輪島の中高中生との交流 【輪島の被害】【交流での気づき】【名古屋でできること】
 - 輪島の中高中生の本音に触れて 【被災・復興の現実】【疑問と訴え】
 - 輪島の中高中生とつくりあげた共同作品 【オリジナルTづくり】【交流を通して】
- 「未来へつなぐ」ために —— 輪島訪問を終えて 26

III. 名古屋市会正副議長と中学生の懇談会「名古屋の未来を熱く語り合おう！」

- 「名古屋市会正副議長と中学生の懇談会」 実施要項 27
- 懇談会の様子 28～30
- おわりに NPO 法人教育支援協会東海 専務理事 西尾 真由美 31
- 編集後記 名古屋市生徒会サミット実行委員 高校2年 中村 洸太郎 32
- 主催・共催・後援・助成・協力 一覧 33

はじめに

“利他の精神をもって地元名古屋に少しでも貢献したい”という熱い思いをもった名古屋市立中学校の中学生が集まって熟議を繰り広げ、アクションプランをつくって実行する「名古屋市生徒会サミット」は2013年に始動し、2015年には実行委員会が立ち上がりました。そして、2015年の生徒会サミットの熟議の中から生まれた中学生の祭典「チュー祭」は、2021年10月に第1回、2024年12月に第2回を開催しました。



第2回チュー祭では、実行委員たちから「震災及び水害に見舞われた能登輪島を応援したい！」との強い要望が沸き起こり、輪島市の3中学校の生徒25名の皆さんと、能登の特産品を扱う事業者の皆さまをお招きし、能登の現状を聞かせていただくとともに、輪島の中学生の皆さんと名古屋の中学生が交流させていただきました。また、第2回チュー祭の熟議から生まれた「能登の伝統料理を名古屋の学校給食で提供したい。」というアクションプランを名古屋市教育員会にプレゼンテーションを行い、実現に向けて現在も活動しています。

第2回チュー祭後も、名古屋の中学生と輪島の中学生がオンラインで交流を続け、2025年11月には名古屋の中学生たちが輪島を訪問し、輪島の中学生や地元の方々との交流を深めることができました。

そのような活動を、実行委員会が2025年12月26日、名古屋市会の正副議長と名古屋の中学生の懇談会で報告させていただき、西川ひさし議長、さわだ晃一副議長両先生から貴重なお話を伺う機会にも恵まれました。

名古屋市生徒会サミットは、学校の垣根を乗り越えて異年齢で集まり、互いに切磋琢磨する、学校や家庭以外の「第3の居場所」でもあります。自分たち自身で高まり合える「場」さえあれば、子どもたちは自らどんどん成長していきます。

私たちは、地元名古屋の多くの皆さまのご協力並びにご助力を賜りながら、地元名古屋を盛り上げたいと思っている中高生たちのために「名古屋市生徒会サミット」という「場」を守り続けたいと思っています。

今後とも皆さまの変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2026年1月吉日
NPO 法人教育支援協会東海
代表理事 本多 功

『つながり』～全国とつながろう～

「名古屋市生徒会サミット 2025」 実施要項

■名 称：「名古屋市生徒会サミット 2025」

■日 時：2025 年 8 月 17 日(日) 10:00 開始 17:00 終了予定 (9:30 受付開始)

■場 所：御器所ステーションビル5階 大会議室 (名古屋市昭和区御器所通3丁目12番の1)

■主 催：NPO 法人教育支援協会東海

■共 催：名古屋市教育委員会

■後 援：名古屋市立小中学校校長会

名古屋市

公益社団法人名古屋青年会議所

■協 力：地元企業サポーター

■目 的：本事業は、名古屋の中学生が利他の精神をもって未来の名古屋に貢献できる、
真のグローバルリーダーを育成する。

■テーマ：「『つながり』～全国とつながろう～」

① 防災 ② 文化交流 ③ その他(中学生の自由な発想で)

■内 容：2024 年に開催した第2回中学生の祭典「チュー祭」の大テーマは「つながり」でした。
同年1月1日に発生した能登半島地震と9月の豪雨災害によって甚大な被害に遭われた
輪島市から25名の中学生をチュー祭に招待し、防災や復興、文化交流について名古屋の
中学生とともに熟議を行い、アクションプランを作成しました。実行委員会では、今後、
輪島はもちろんのこと、全国の地域とつながりを増やしたいという意見が出ました。
そこで、今夏のサミットでは、「防災」「文化交流」「その他(中学生の自由な発想で)」の
観点から、どのような「つながり」をしてみたいか熟議を行いました。

■参加者：名古屋市の中学生……14校 45名

石川県輪島市の中学生(オンライン交流に参加)……3校 13名

福島県・神奈川県の中学生(オンライン発表に参加)……3校 5名

名古屋市生徒会サミット実行委員(高校生・大学生)……15名

講師……京都芸術大学客員教授 寺脇研氏

来賓等……約10名

■参加校：名古屋市 有松中学校・今池中学校・大江中学校・大高中学校・神沢中学校・
川名中学校・北山中学校・供米田中学校・桜丘中学校・昭和橋中学校・
新郊中学校・平田中学校・本城中学校・守山西中学校 (名古屋市立略)
石川県 輪島市立東陽中学校*・輪島市立門前中学校*・輪島市立輪島中学校*
福島県 伊達市立霊山中学校*・福島市立清水中学校*
神奈川県 葉山町立葉山中学校* (＊オンラインにて)

これまでの活動

○ 第1回「生徒会として行える地域貢献」

2013年7月17日(火) 名古屋市教育センター6階研修室 26校72名参加

○ 第2回「生徒会として行える地域貢献 3つのテーマで(防災・環境・いじめ撲滅)」

2014年1月18日(土) 名古屋市立笹島中学校ランチルーム 17校70名参加

○ 第3回「地元を盛り上げるアクションプラン」

2015年9月19日(土) イーブルなごや2階視聴覚室 16校70名参加

※この際、ある班がアクションプランで「中学生の祭典『チュー祭』」の開催を提案する。

○ 第4回「4つのテーマで熟議をしよう(防災・環境・いじめ撲滅・SNSリテラシー)」

2016年10月29日(土) 御器所ステーションビル5階大会議室 13校62名参加

○ 第5回「4つのテーマで熟議をしよう(防災・環境・いじめ撲滅・SNSリテラシー)」

2017年10月22日(日) 御器所ステーションビル5階大会議室 11校59名参加

○ 第6回「チュー祭を盛りあげよう！(4つのテーマの積み上げをどう伝えるか)」

2018年10月20日(土) 御器所ステーションビル5階大会議室 8校35名参加

○ 第7回「チュー祭を盛りあげよう！(4つのテーマ以外でチュー祭で

やってみたいことを出し合おう！ダイナミックな発想で)」

2019年8月2日(金) 御器所ステーションビル5階大会議室 19校65名参加

○ 第8回「SDGsを私たちの手で！」——第1回中学生の祭典「チュー祭」

2021年10月16日(土)・17日(日) オアシス21 銀河の広場 1027名来場

○ 第9回「身近な課題を解決しよう」

2022年8月20日(土) オーシャンスクエア3階(オンライン開催) 6校15名参加

○ 第10回「第2回中学生の祭典『チュー祭』に向けてどんな祭りにしたいか」

2023年8月20日(日) 御器所ステーションビル5階大会議室 12校33名参加

○ 第11回「つながり」——第2回中学生の祭典「チュー祭」

2024年12月7日(土)・8日(日) 久屋大通公園エンゼル広場 約2000名来場

○ 第12回「『つながり』～全国とつながろう～」

2025年8月17日(日) 御器所ステーションビル5階大会議室 14校45名参加

(その他、全国から6校18名オンライン参加)



第2回中学生の祭典「チュー祭」

報告動画はこちらからご覧いただけます。

タイムスケジュールと当日の様子

10:00 オープニングセレモニー

はじめに、司会の高校生実行委員から、名古屋市生徒会サミットとそこから誕生した「チュー祭」について説明がありました。サミットならではの魅力として、決まったルールや枠にとらわれず自由な発想でアクションプランを熟議できることが挙げられました。



次に、本協会の本多代表から挨拶がありました。何かを生み出す際には、必ず最初に行動を起こすリーダーがいるものの、その存在だけでは大きな流れは生まれないと語られました。むしろ、リーダーを見て勇気をもって加わる最初のフォロワーこそが、原動力になるという考えです。代表は、このように一人の挑戦とそれに応える仲間との連鎖によってこそ、ムーブメントが社会へ広がっていくことを強調されていました。

また、アイスブレイクとして毎年恒例の「友達の輪ゲーム」を行い、緊張した様子の中学生も次第に打ち解けていきました。



10:30 熟議前半 「事前学習をシェアし、取り組んでみたいことを出し合おう」



参加した中学生から関心のあるテーマを聞き出し、「防災」「文化交流」「スクールランチ」「図書・児童養護施設」「バーチャル」「学校交流」「地域コミュニケーション」の7テーマが挙がりました。これをもとに45名が全8班（スクールランチのみ2班）に分かれ、それぞれのテーマについて議論を深めました。熟議の開始にあたっては、司会から中学生へ向けて「どんな意見も否定しない」というサミットの理念や、付箋の効果的な利用など、円滑に熟議を進めるために具体的なアドバイスが伝えられました。

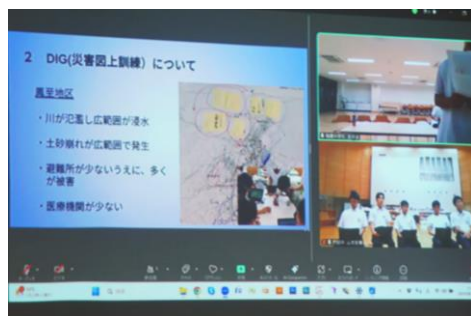
11:30 輪島の中学生とのオンライン交流

昨年のチュー祭に参加してくださった輪島市の3中学校の皆さんとオンラインでつながりました。

昨年のチュー祭では、名古屋と輪島の中学生がともに熟議し、「中学生ができる防災と復興のアクションプラン」を作成しました。その中で、「互いの郷土料理を給食に出す」という提案が挙がったことをきっかけに、チュー祭終了後、実行委員会ではスクールランチプロジェクトを進めていることを輪島の皆さんに報告しました。能登の郷土料理を名古屋市のスクールランチとして提供することで、被災の記憶だけでなく、能登の食文化の魅力も伝え広めることを目指しています。



次に、輪島の中学生から学校や地域の現状について紹介がありました。輪島中学区内の6つの小学校



は被災後、合同の仮設校舎で授業が行われ、来年度からは統合が予定されています。地域には土砂崩れによる被害箇所や再建が必要な建物も多くあるなど、厳しい現状が伝えられました。また、輪島中学校では、防災への取り組みとして「DIG(災害図上訓練)」を行い、自分たちの地域の危険性を可視化し、今後それをどのように解消していくか生徒で話し合いをしていると教わりました。

門前中学校では、総合的な学習の時間で、生徒が自ら地域の方々へインタビューして「復興新聞」を作成したり、地域のお寺の廃ろうそくを用いてキャンドルを手作りしたりしていると聞きました。「能登の現状を多くの人に伝えたい」という中学生の思いがあり、新聞やキャンドルは修学旅行先の東京で配布するそうです。名古屋の中学生からは「学校新聞は私の中学でも作っているが、それを東京で配布するというのはとても規模が大きい。そんなアイデアもあるんだ!」と、輪島の中学生の行動力に驚く声が挙がりました。



お互いの学校自慢や地域の魅力について紹介し合う時間では、名古屋側から特色ある生徒会活動が語られました。昭和橋中学校では「推し活昭和橋」と題し、生徒や先生へインタビューを行い、その内容をお昼の放送で紹介する活動を実施しています。互いの人物像を知り合い、関心や親しみを持って「推す」ことにつなげる工夫がされています。神沢中学校では創作の寸劇を通じた活動が行われています。大玉転がしを題材に「神沢が原の戦い」と名付け、生徒会メンバーが織田信長などの将軍になりきるといったユニークな実践で、学校全体を盛り上げたそうです。

輪島の中学生からは、輪島市はフグが有名でかつて日本一の漁獲量を誇っていたことや、砂浜の上を歩くと「キュッキュ」と音が鳴る、門前地区の「琴ヶ浜(泣き砂の浜)」など、地元ならではの魅力を紹介してくれました。



最後に、名古屋と輪島の中学生が今後とも幅広いテーマで末永く交流を続けていきたいということを確認しました。互いの文化や魅力を知る中で親睦が深まり、とても有意義な時間となりました。



12:15 昼食・生徒会活動アンケート



熟議と輪島交流で盛り上がった後は、お昼休憩の時間です。班ごとに談笑しながら仲を深めている様子が見受けられました。また、この時間で各中学校の生徒会活動に関するアンケートに回答してもらいました。他の中学校の取り組みを知ることで今後の自校の活動の参考となるように、集約結果は後日、PDFで各参加校に共有しました。

※ アンケートの質問と回答は13,14頁をご覧ください。

13:00 熟議後半 「アクションプランを作成しよう」

熟議前半でたくさん出し合った意見やアイデアをもとに、いよいよ班ごとに「アクションプラン」を作成し模造紙にまとめていきます。司会からは、「なぜそのテーマにしたのか」「そこに込めた思いは？」の2点を意識し、発表に臨んでほしいとアドバイスがありました。



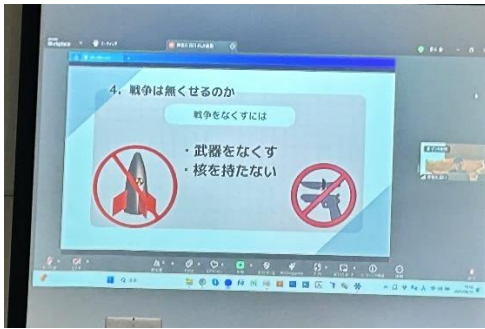
15:30 他県の中学生からのオンライン発表

アクションプランの発表に先立って、福島県から2校、神奈川県から1校の中学生在オンラインで、自身の取り組んでいることなどについて発表をしてくれました。

福島県伊達市立霊山中学校の生徒からは、地域のつながりと伝統文化の継承に関する発表がありました。霊山地区では、中学生と小学生の交流機会が多くあり、その中で中学生はリーダーとしての意識を持ち、小学生は中学生の影響を受けて成長するそうです。このような地域のつながりを大切にしていきたいと語っていました。一方で、人口減少と過疎化が進み、町の伝統文化である「霊山太鼓」は存続の危機にあります。若者の意見を地域の中だけでなく、外からも取り入れてPRしていくことで、霊山太鼓の担い手を増やし、町の活性化につなげていきたいと熱い思いを伝えてくれました。



福島県福島市立清水中学校の生徒からは、給食の食べ残しを有効活用するための取り組みについて発表がありました。福島市の小中学校から食べ残しとして出されるごみの総量は年間17万kgを超え、その処理費用は約2300万円にも上るそうです。そこで、解決策として自校に畑を作り、食べ残しをコンポストで堆肥化させて野菜を育てるという提案をしていました。その野菜は給食センターへ送られ、再びおいしい給食として生まれ変わることを想定しています。この取り組みによって、ごみ処理費用と二酸化炭素排出量を軽減できるほか、食料自給率の増加や野菜作りを通じた新たなコミュニケーションも期待されます。まずは自校で実践し、その後は福島市内・県内の中学校にも普及させていきたいと話していました。



神奈川県葉山町立葉山中学校の生徒からは、元イスラエル兵士の講話で学んだことをもと「戦争」に関する発表がありました。戦争はプロパガンダと結び付き、意図的に流布される偏った情報に扇動されて始まるものであり、過去の歴史を学び、未来に生かしていくことの大切さについて語っていました。しかし、私たちは学校で習う歴史を暗記科目として捉えてしまっており、その結果「歴史を学ぶが、歴史に学んでいない(教訓を生かすことができていない)」と指摘していました。名古屋の中学生からは「今まで考えたことのない視点に気付かされた」と感心する声が多く挙がりました。戦後 80 年という節目の夏に、戦争と平和について改めて考えるきっかけとなりました。

15:45 アクションプラン発表

約 3 時間半にわたる熟議の成果として、班ごとにアクションプランを発表しました。内容はそれぞれのテーマの個性がよく表れており、中学生の自由で斬新な発想にあふれていました。

※ 詳しくは 9～12 頁をご覧ください。



16:30 エンディングセレモニー



最後に、京都芸術大学客員教授の寺脇研先生から、中学生へ向けてご講評をいただきました。寺脇先生は 2013 年の第 1 回サミットから毎年私たちを応援してくださっています。今年のサミットでは、防災班がアクションプランとして、AI を用いたオリジナルの防災ソングを作成し披露したことなどに触れ、中学生の成長と進化に感心しておられました。

また、実行委員第 5 期生 (2019 年加入) で大学 2 年の伊藤結夢さんから、中学生へ向けたメッセージもありました。実行委員会の魅力として、他校の生徒と交流でき新しい刺激を得られること、そしてチュー祭に代表されるように、普通の中学生にはできないような特別な体験ができることの 2 点を挙げました。「中学生の自分らしいアイデアをこれからもたくさん出してほしいです。私たち実行委員はその意見を待っていますし、一緒に形作っていかれたらと思います。」と、実行委員会への参加を呼びかけました。

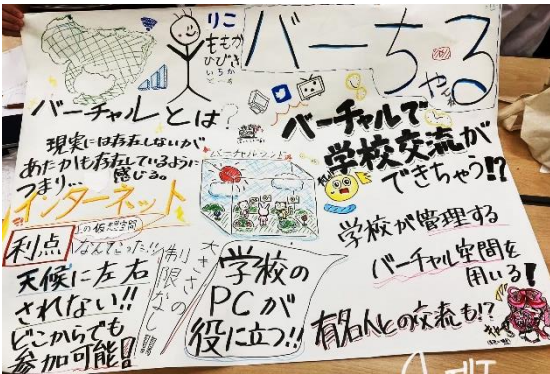


その後、中学生の皆さんに実行委員会参加希望用紙を配付しました。このサミットをきっかけに実行委員会へ新たに加入した中学生は 11 名に上ります。2015 年に 6 名の中学生によって発足した実行委員会は、今では中高生あわせて約 50 名規模で活動しています。こうして名古屋市生徒会サミットは脈々と受け継がれていくのです。

アクションプラン発表

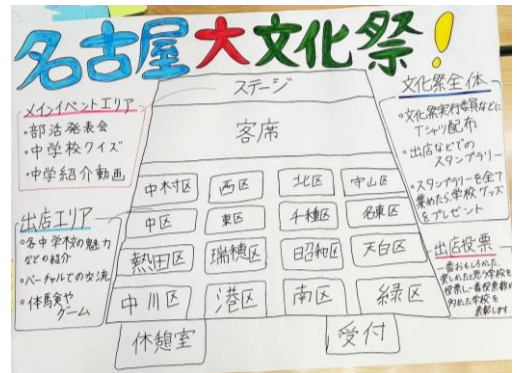
A班 テーマ「バーチャル」

こんにちは、私たちはバーチャル班です。まずバーチャルとは、現実には存在しないが、あたかも存在しているように感じられる、インターネット上の仮想空間のことです。利点として、健康や距離に左右されず、どこからでも参加できる点が挙げられます。もしかしたら有名人との交



流もできちゃうかもしれません。私たちは、この利点を活かして学校交流を広げ、課題を共に解決していきたいと考えました。

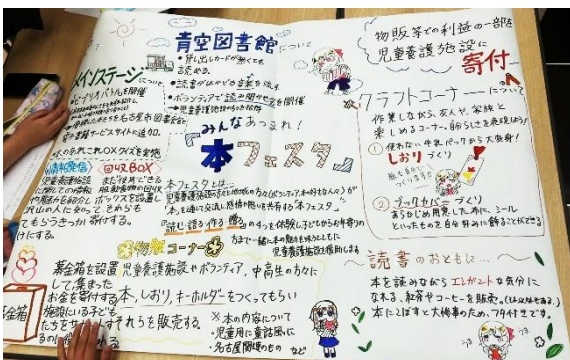
次に、「名古屋大文化祭」を提案します。会場を吹上ホールと想定し、各区の学校が出展ブースを設け、ステージでは吹奏楽や演劇などの部活動発表、さらに学校に関するクイズ大会を行います。出



展ではフリーマーケットや体験型パビリオンを実施し、仮想通貨チケットを使った買い物も体験できます。また、全体イベントとしてスタンプラリーや人気投票を行い、オリジナルグッズを配布する予定です。この文化祭を通じて学校の垣根を越え、名古屋の生徒みんなが繋がれる場にしていきたいです。

B班 テーマ「図書・児童養護施設」

私たちは「本フェスタ」というイベントを提案します。本を通じて児童養護施設の方や地域の人、ボランティア、本好きの人たちが交流し、思いを共有できる場にします。「読む・語る・作る・送る」の4つを体験し、子どもからお年寄りまで楽しめます。青空図書館では外で気軽に読書、ステージではビブリオバトルや〇×クイズを開催し、本の魅力を広げます。クラフトコーナーでは



牛乳パックのしおりやブックカバー作りを行い、その収益の一部を養護施設に寄付します。飲み物販売や物販コーナーもあり、施設の子やボランティアが作った本や雑貨も並びます。また情報発信や回収ボックスを設置し、衣服や保存食を集めて子どもたちの生活を支援します。募金も行い、読書の楽しさと支援の輪を同時に広げます。本を通して人と人をつなぎ、思いを伝えてみませんか。

C班 テーマ「文化交流」

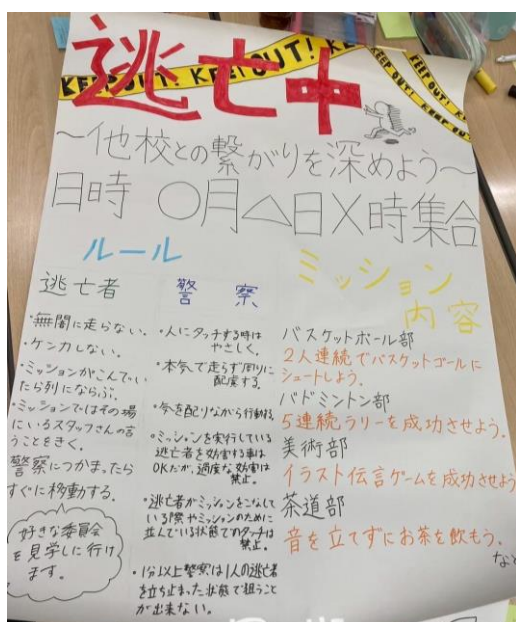
私たちは「タイニージャパン」という企画を提案します。これは全国 47 都道府県の文化を紹介するイベントで、方言クイズや顔はめパネルなどを通して楽しく交流します。目的はお互いの文化を知り、新たな価値観や仲間を作り、自分の地域や他の地域への理解を深めることです。例えば、各都道府県の花で日本フラワー地図を作ったり、折り紙を使って飾ったりして、映えスポットとしても楽しめます。



方言クイズでは音声付きで発音やアクセントの違いを学び、遊びながら言葉の文化を知ることができます。さらに顔パネルで有名人になりきったり、スタンプラリーで歴史を学んだり、体験しながら学べる工夫をしています。タイニージャパンには全国の文化を広め、コロナ禍で減った交流を増やしたいという思いを込めています。文化を知ることとは人を知ること。自分の考えを伝え、他人の文化を受け入れることで、未来につながる交流を目指します。文化交流はつながりの一歩！

D班 テーマ「学校交流」

私たちが提案するのは「逃亡中」という交流会です。皆さん今、頭に「逃走中」という文字が思い浮かんでいるかもしれませんが、この「逃亡中」には少し違ったルールがあります。警察と逃亡者に分かれ、逃亡者



は誰が警察か分からない中で仲間を見つけ、ミッションを成功させて警察を減らしていきます。ミッションは各部活が協力して用意し、例えば、バスケット部なら連続シュート、美術部ならイラスト伝言ゲーム、茶道部なら音を立てずにお茶を飲むなどがあります。他校の生徒とペアを組む仕組みにすることで自然に交流が生まれます。警察・逃亡者それぞれにルールがあります。逃亡者はミッションをしている間は捕まらないので、順番を守ってください。警察は人にタッチする時は優しく、本気では走らず、気を配りながら行動するという3つのルールがあります。この活動は単なる鬼ごっこではなく、他校の活動を体験しながら人とのつながりを深められる新しい形の交流会です。

E班 テーマ「スクールランチ」

私たちはスクールランチについて考えました。まず人気メニューはラーメンやうどんなどの麺類、カレーやデザートが多いことが分かりました。季節のメニューでは、夏はアイスやゼリー、冬は焼き芋などが提案され、地元の特産物を使うアイデアも出ました。また輪島の郷土料理として、門前そばやフグの唐揚げ、えがらまんじゅうなどが挙がり、名古屋めしと組み合わせた献立を考えたいと思いました。食品ロスの原因となる野菜の食べ残しも



課題なので、見た目をカラフルにしたり、豪華なデザートを取り入れたりする工夫をしたいと思います。さらに五大栄養素を意識し、栄養バランスの取れた食事を目指します。最後に飯の献立として、石川県のエビを使った天むす、能登大根入り土手煮、加賀れんこんチップス、石川名物のめった汁、そしてデザートにえがらまんじゅうを組み合わせました。食べて楽しく、交流を広げるスクールランチを実現したいです。

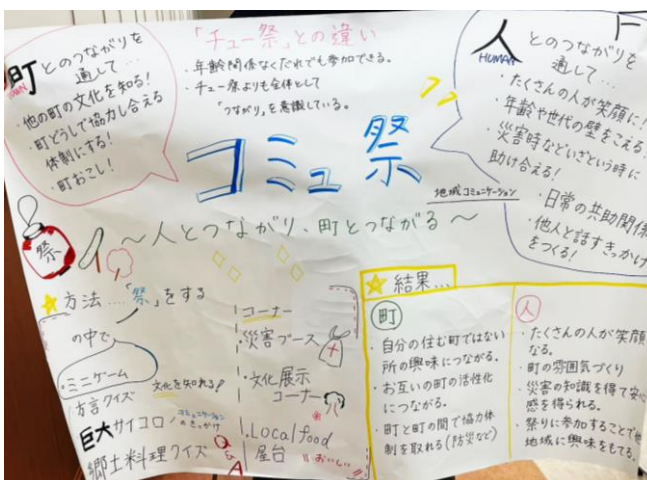


F班 テーマ「地域コミュニケーション」

僕たちは「コミュ祭」という地域コミュニケーションのお祭りを提案します。テーマは「人とつながり、町とつながる」で、年齢や世代を越えて誰でも参加できるのが特徴です。この祭を通して町同士で文化を知り合い、協力体制を築き、災害時に助け合える関係



を目指します。内容としては、まずゲームコーナーで方言クイズや巨大サイコロ、郷土料理クイズなどを楽します。さらに地域の文化や災害対策を学べる展示コーナーや、屋台で郷土料理を味わえる場も用意します。人の観点では笑顔が広がり、世代を越えた交流ができます。町の観点では地域活性化や災害時の協力体制づくりにつながります。楽しみながら学び、地域をより明るく元気にする祭りを提案します。



G班 テーマ「スクールランチ」

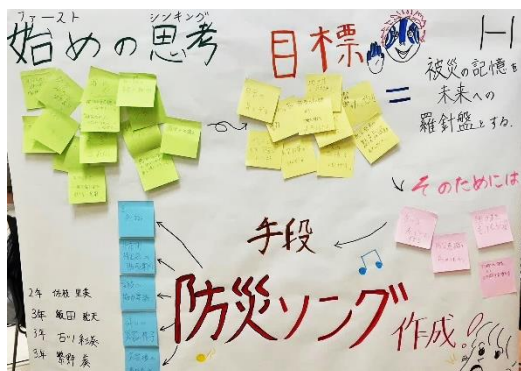
今からスクールランチについて発表します。私たちは石川県の郷土料理を取り入れたランチメニューを考えました。食べる人が楽しめるよう、珍しくインパクトがあり、温かく栄養バランスも整ったものを意識しました。まず「金沢おでん」は、大根やはんぺん、がんもどき、



ちくわ、こんにやくなどを出汁の風味を大切に、上品に煮込んだ一品です。次に「めった汁」は、さつまいもや豚肉、根菜など具たくさんで、名前は「やたらめったらたくさん具材を入れる」ことに由来するそうです。「ブリ大根」は甘辛いしょうゆ味で煮込んだ、縁起の良い料理です。デザートは輪島の中学生もおすすめしていた「えがらまんじゅう」です。もち皮にこしあんともち米を載せた、冷めてもおいしいまんじゅうです。

H班 テーマ「防災」

私たちは「被災の記憶を未来への羅針盤に」というスローガンのもと、防災意識を高め、全国とつながることを目指します。理想としては、避難時の安全確保や地域間の助け合い、防災ソングによる関心喚起などを挙げ、具体的な目標として、自分の身を守る、防災バグの普及、ペットとの安全確保などを設定しました。そこで私たちは防災ソングを作り、リズムや歌詞で防災意識を伝えます。動画の概要欄には正しい知識や防災商品の情報、全国の学校・自主防災組織との協力リンク、防災体験や詳しい情報の動画リンクを貼る予定です。この活動を通して、全国とつながりながら、自分と大切な人の命を守ることを目指します。



♪『防災準備キャンセル界限』
 防災～ 準備～ キャンセル界限
 非常食ストック 賞味期限切れ～
 水のペットボトル 気付けば空っぽ～
 ランタン電池使ったまんま Yo～
 防災～ 準備～ キャンセル界限～
 やろうやろうで 先送り～
 地震速報で アワワのワイ～
 「明日買おう」が永遠リピート～

動を通して、全国とつながりながら、自分と大切な人の命を守ることを目指します。

←当日 AI で作曲したものを会場で披露。

この防災ソングは、「非常食の賞味期限が切れていた」「ランタンの電池を使い切ったまま忘れていた」といった、誰にでも起こりがちな防災の一場面を切り取っています。防災ができていない自分を責めるのではなく、思わず共感してしまうような内容にすることで、「完璧でなくてもいいから、まず一歩」という思いを伝えたいと考えました。

参加校の生徒会活動に関するアンケート

サミットの魅力の一つに「他校の生徒と交流できる」という点があります。そこで、他校の生徒会の取り組みについて知り、自校での活動の参考になればという思いから、参加校（名古屋市内 14 校）の中学生の皆さんにサミット当日、アンケートを実施しました。以下がその質問内容と回答結果です。

1. 防災に関する生徒会活動を行っていたら教えてください。（今後取り組んでみたいことでも OK）

- 防災劇（実行委員を集めて動画を撮影した）※過去の取り組み。 【有松】
- 輪島の中学校がやっていた備蓄の確認をしてみたい。 【今池】
- 防災マップの作成。 【大高】
- 防災クイズに後期取り組む予定。
能登半島地震やイラクの地震の際に募金活動をした。 【神沢】
- 設備の点検。 【川名】
- スリッパが脱げやすいので脱げにくい物に移行していく。 【北山】
- 防災大会。 【供米田】
- 能登への募金（過去）。生徒会新聞にチュー祭のことを書く！ 【桜丘】
- シェイクアウト訓練。 【昭和橋】
- 防災の輪（地域の人と消防団の人と避難所生活でどのようにしたらよいか考えた）。
門前中が行っている防災マップの作成などやってみたい。 【新郊】
- 防災クイズ。HUG 体験（避難所運営ゲーム）。臨時避難訓練。 【平田】
- 能登への募金。 【守山西】

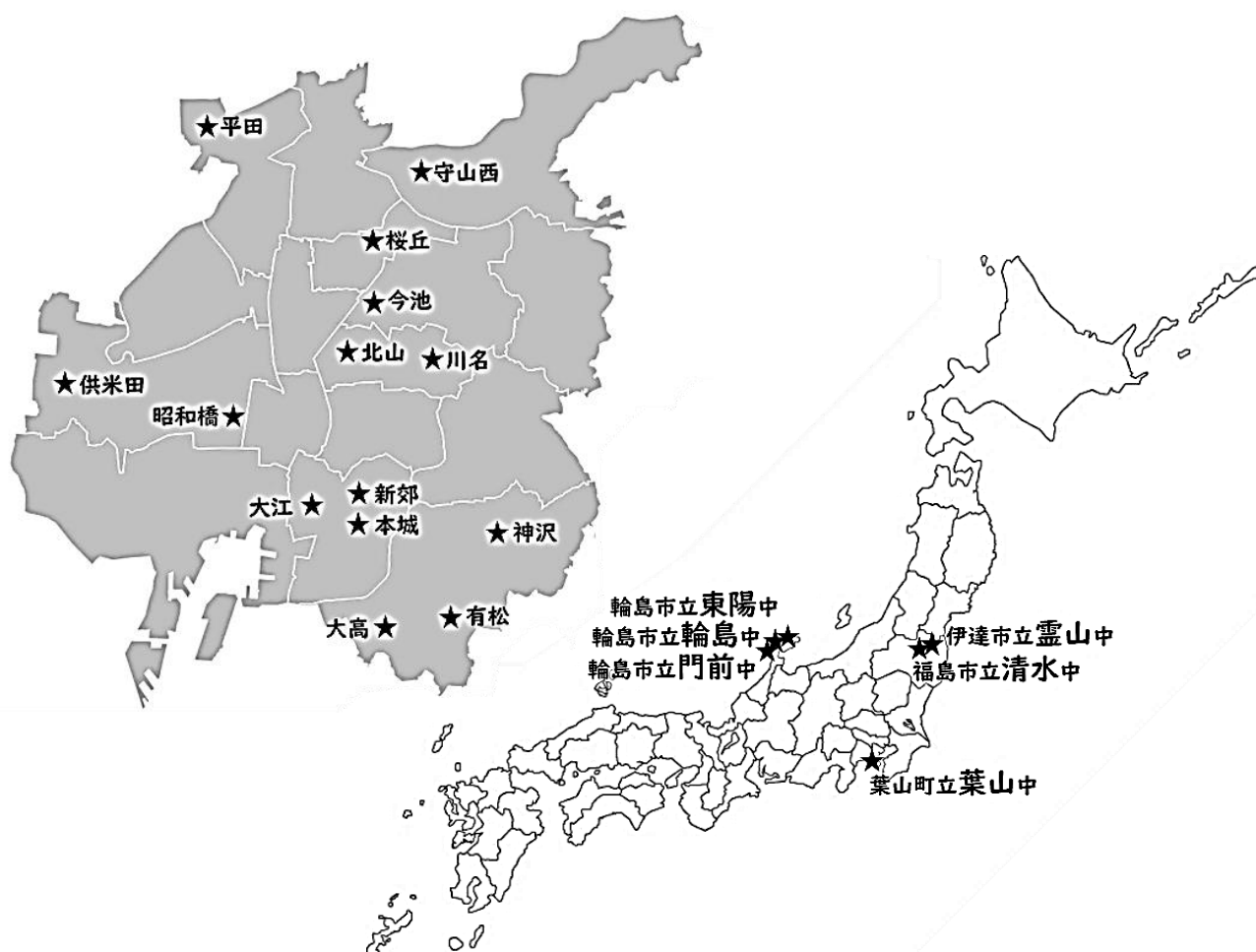
2. 地域や他校との関わりがあれば教えてください。（今後取り組んでみたいことでも OK）

- 部活の人数が少ないので合同で練習している部活がある。 【今池】
- もっとボランティア活動をしたい（他校の生徒と一緒に）。 【大江】
- あいさつキャンペーン（毎週水曜日）←「カラーロード」という地域の人も通れる道で。 【大高】
- 音楽会に近くの高齢者の方々に来てもらった。
他校と ZOOM でオンライン意見交換をした。
愛の年賀状という高齢者の方々（地域の）に年賀状をかく活動をした。 【神沢】
- 生徒会サミット。 【川名】
- 地域新聞やポスターなどを作る。 【北山】
- 防災大会のボランティア。 【供米田】
- PTA の人が一緒にあいさつ運動をしてくれた。 【桜丘】
- 暑中見舞いカード。保護司対談。 【昭和橋】
- ペットボトルのキャップ運動（ワクチンに変える）。
緑の募金（森林守る、子どもに自然教育）。 【平田】
- イベントの時に学校開放をしています。
地域との関わりを増やすため、社会見学のようなことを行えたらと思っています。 【本城】
- 地域の方と一緒にあいさつ活動。 【守山西】

3. 他校の活動で知りたいことがあれば教えてください。

- 行事やイベントで何をしているか。あいさつ運動等をしているか。【有松】
- 生徒会でどんな活動をしているのか。生徒会での校則検討について。【大江】
- 地域との交流で何をやっているか。【大高】
- 意見箱などをどのように設置しているのか。【神沢】
- 議題のテーマ。【川名】
- 校則についての活動。中学校ならではの文化。【北山】
- 長期間の休みの学校の使い方。【供米田】
- 学校全体でどのような交流をしていますか？ お昼の放送はどのような企画がありますか？【桜丘】
- 生徒会活動の詳しい内容。【昭和橋】
- 防災に関する取り組みと意識。【新郊】
- 独自のイベント。意見箱（目安箱）の解決する数（半年に何回?）。
防災意識を高めるために何をしているか。【平田】
- 他校の生徒会の公約など知りたいです。【本城】
- あいさつする人を増やすためにどんな活動をしているのか。【守山西】

「名古屋市生徒会サミット 2025」参加校マップ



ふりかえりの会 成果と課題

サミットから1週間後の8月25日(月)、実行委員でふりかえりの会を行い、サミットの成果と課題をまとめました。この会には、サミットの準備・運営に携わった高校生・大学生のほか、サミット後に新しく実行委員会に加入した中学生も参加しました。以下はその際に出た意見を一部抜粋したものです。

【成果】

- 先輩方や他の中学生とのタテ・ヨコのつながりがよく実感できた。
- 知らない子との交流で新しい考え方などが生まれた。
- その場でチームを組んだ人と協働し、アクションプランを時間内に完成させるという経験ができた。
- 人と人とのつながりを大切にすることができた。一期一会。
- 輪島とのつながりを深めることができた。
- オンラインによる県外の中学生との交流と発表で視野が広がった。
- 全国とのつながりをアピールできた。
- 先輩方のフォローがたくさんあって、熟議がやりやすかった。
- 結論とともに、自分の中で大切にしている思考の過程も知ってもらうことができた。
- 寺脇さんからのご講評で、それぞれの班の発表がつながっているようだと褒めていただいた。

【課題】

- 理想について話していたので本当に実現できるか不安。
- 自分たちがアクションプラン作った後、それを広めていく手段がない。
- 実現するためには人と財力が必要で、どのようにこの活動を広めていくか。
- 実行委員の役割の比重が偏っていた。
- スライドデータの受け渡しなどがスムーズにできなかった。
- 終了時間が少しオーバーしてしまった。
- 始めがドタバタしていて、実行委員の役割がうまくいかなかった。

【解決策・今後に向けて】

- 次回からもサミットのリハは必要。
- 準備に手間取るので、役割分担を理解しておく。
- オンラインミーティングで実行委員のより深い連携やつながりを作る。報連相をこまめにする。
- 連携担当班の動きが遅かったので、進捗報告をしっかりとる。
- 中学生が早く来すぎないように（実行委員が準備でドタバタしているため）要項で明記する。
- 宣伝を工夫し、ポスターをただ貼るのではなく、見る必然性をつくる（デジタル・アナログ両方）。
- 名古屋以外の生徒会サミットとつながりたい（東京・大阪・福岡など）。
- 防災ソングと輪島交流を動画にして広めたい。

来年のサミットがよりよいものとなるよう、これらの反省を忘れずにしっかりとつないでいきます。

「能登とつながる、未来へつなぐ。」

名古屋市生徒会サミット実行委員会「輪島訪問」 実施要項

1. 輪島訪問（概要）

目 的：名古屋市生徒会サミット実行委員が輪島市を訪問し、復興に向かう輪島の現状や
現地の中学生・高校生のがんばりを取材し、名古屋で発信する。

日 程：2025 年 11 月 1 日（土）～11 月 3 日（月祝）

内 容：○ 輪島市の中学生・高校生との交流
○ 出張輪島朝市での取材と販売手伝い
○ 輪島朝市跡や白米千枚田の見学

2. 輪島市の中学生・高校生との交流

目 的：○ 輪島の中学生の「生の声」を聴くことで、復興に向かう輪島の現状や現地の中学生・
高校生のがんばりを学び、それらを名古屋に伝え広める。（名古屋の実行委員より）
○ 名古屋の人たちに能登の現状を知ってもらい、輪島の中学生が防災や復興について
どのようなことをしているか知ってほしい。（門前中より）
○ 輪島の中学生全員が名古屋とのつながりを強く認識し、互いに理解を深め合って
楽しい会にする。（輪島中より）

日 時：2025 年 11 月 2 日（日） 13:00～17:00（4 時間）

場 所：輪島市立輪島中学校 多目的室

参加者：○ 名古屋市生徒会サミット実行委員 中学生 5 名（今夏のサミットより加入した世代）
高校生 5 名（去年の「チュー祭」を企画運営した世代）

○ 輪島市の中学生 門前中学校 5 名
輪島中学校 9 名

○ 去年の「チュー祭」に参加した輪島市の高校生 2 名（門前中学校出身者）

内 容：

①「～お互いを知る～」輪島・名古屋のクイズ大会

- 名古屋・門前中・輪島中混合のグループに分かれる。
- 各班の中で、防災・復興・文化などに関するクイズを作成する。
→輪島と名古屋で一緒にクイズを考えることで、お互いのことを知りながら関係を深める。
- 班ごとに考えたクイズを全体に発表し、お互いのことを楽しみながら学ぶ。

②「～文化にふれあう～」輪島・名古屋の特産品お菓子パーティー（休憩時間）

- 輪島・名古屋それぞれから地域のお菓子を持ち寄って紹介し合い、異なる文化に触れる。

③「～輪島と名古屋でひとつのものをつくる～」ポスター制作

- 当日決めた共通のテーマに沿って、輪島と名古屋でひとつの大きなポスターを制作する。

④「～交流の証を残す～」記念Tシャツづくり

- 輪島と名古屋で一緒にデザインを考え、交流の記念としてオリジナルTシャツをつくる。

訪問の経緯・事前活動

I. 第2回中学生の祭典「チュー祭」にて 輪島市の中学生 25 名を招待 2024 年 12 月 7 日・8 日

2024 年正月に発生した能登半島地震を受けて、実行委員会では私たちに何かできることはないかと議論を重ねました。熟議の末に、私たちにできることは「能登に住む同じ世代の中学生から生の声を聴く」こと、そして「能登の中学生に笑顔になってもらう」ことだと考えました。そこで、私たちは第2回『チュー祭』のテーマを「**能登とつながる、未来へつなぐ。**」と定め、輪島市の中学生 25 名を名古屋に招待することになりました。

当日は、両市の中学生で「中学生ができる防災・復興」をテーマに熟議を行いました。能登の現状について生の声を聴く中で、輪島市の中学生から「**名古屋の人たちに輪島の現状を見に来てほしい**」という声が多く上がりました。また、両市の中学生の意見として、チュー祭で生まれた「つながり」を一回限りのもので終わらせず、今後も交流を続けていこうと約束が交わされました。



←こちらから第2回「チュー祭」の
報告動画 をご覧いただけます。



Ⅱ. 名古屋市生徒会サミット 2025 にて 輪島市の中学生とオンラインで交流 2025 年 8 月 17 日

昨年の「チュー祭」で生まれた「つながり」を次の世代へつなげるために、毎年夏休みに開催している名古屋市生徒会サミットにて、輪島市の中学生とオンラインで交流しました。当日は、お互いの文化や生徒会活動、学校自慢など、防災・復興に限らず幅広い話題で意見が交わされました。参加した名古屋の中学生はほとんどが「チュー祭」に参加していない、輪島の中学生と初めて交流する人たちであり、絆が次の世代へ受け継がれる機会となりました。



Ⅲ. 現地交流に参加する輪島市の中学生とオンラインで事前ミーティング 2025 年 10 月 23 日

11 月の輪島現地交流に向けて、両市の中学生がオンラインで意見交換を行いました。交流をどのようなものにしたいか話し合い、「防災・復興について」と「レク・文化的交流」という 2 つのテーマが挙げられました。『チュー祭』は名古屋側からの一方的なお誘いでしたが、輪島訪問は当日の交流内容を双方で形作ることができました。



名古屋に伝える。輪島訪問記



輪島朝市跡

【輪島朝市 歴史と再生の狭間で】災害で痛ましい姿となった現場を訪れ、平安時代より続いてきた朝市の歴史が一瞬にして崩れ去った事実を目の当たりにした私は寂寥感に襲われました。長年築き上げられてきた賑わい、受け継がれてきた文化、温かな日常が失われた重みを肌で感じた一方で、仮設の場所で再び朝市を開く人々の姿に、困難に負けない強さと確乎不動たる希望を見ました。

【名古屋に向けて】輪島で見た光景を名古屋に伝えなければならないと強く思いました。長年大きな災害のない名古屋だからこそ、歴史や文化が一瞬で失われる可能性を知る必要があるのだと痛切に感じました。輪島の記憶を風化させず、遠い場所の出来事で終わらせないこと、それが今を生きる私たちの使命なのではないでしょうか。



実行委員第11期生/名古屋市立北山中学校3年 飯田 琥天



白米千枚田

【小さい頃の記憶】私は小さい頃に家族で白米千枚田を訪れたことがあり、そのときは一面に美しい稲が広がっていました。しかし、震災や豪雨の影響で地割れや水路の崩壊などが起き、一部の棚田は機能しなくなっていました。今回の訪問



では大きな被害は見えませんでした、幼い頃の記憶と比べると、どこか寂しい印象を受けました。



【新たな発見】千枚田の視察を終えた後、私たちは「安城東高等学校草刈十周年記念石碑」を見つけ、愛知県立安城東高等学校が昭和 57 年から平成 3 年まで修学旅行で草刈りに来ていたことを知りました。今の中高生が生まれる前から続く愛知と輪島のつながりに感動し、私たちのつながりもチュー祭や今回の訪問で終わらせず、これからも脈々と受け継ぎながら大切にしていきたいと思いました。

実行委員第9期生/高校1年 中村 風沙

Before (2018/09/02)



After (2025/11/02)



市街地から千枚田への道路は、土砂崩れや落石の被害があり、復旧工事が行われている。



～出張輪島朝市(ワイプラザ)での取材～

心の復興 —— 『なじみ希望の会』さんのお話

【なじみ希望の会】地元の住民と解体業者が力を合わせて立ち上げた「なじみ希望の会」。この会に参加している方からお話を聞かせていただきました。主な活動は、解体された地にひまわり畑を整備、子どもたちのために公園を作り定期的にイベントを開催。こういった活動のおかげで、輪島市に笑顔の花がたくさん咲いたそうです。



【取材を通して】輪島で自分自身が見たもの、聞いたものを自分の中で留めるのではなく、名古屋の中学生にも伝えていきたいです。そうすることで、この地震がただ過去の出来事になってしまうことを防ぎ、長年大きな災害が起きていない名古屋の教訓になると思います。当時のことを忘れず、記憶を風化させないことが今の私たちに最も大切なことだと学びました。



実行委員第11期生/名古屋市立平田中学校3年 堀江 ふう



『一夜千し 二木由喜美商店』さんのお話

【輪島の給食と郷土料理】輪島での給食に地域の料理が出るのかを聞いたところ「食材として出ることはよくあるけれど、料理が出るのは一年に一回の特別な日だけかな」と、地元でも郷土料理が出る

ことはあまりないことがわかりました。また、どのようなものが出るのかを聞いたところ「輪島のフグを使った唐揚げとか、季節によってカニも出るみたいだよ」と教えていただきました。海産物が有名な地域ですが、給食にフグやカニが使われることに驚きました。



【自身の思い】取材をしている中で、この思いをつなげてほしいといろいろな話をしてくださいました。その思いを無駄にせず、今後に最大限活かしていくことが私たちにしかできない一番大切なことだと思いました。



実行委員第10期生/高校1年 吉村 虹穂



『珠洲焼 てんだ店』さんのお話

【被災の瞬間】輪島市で地震が発生し、てんだ店の宏明さんは自宅の倒壊により1時間半生き埋めになったそうです。突然の揺れにどうしたらいいかわからず、避難訓練も役に立たなかったと宏明さんは教えてくれました。



【避難生活】救出後は3カ月入院し、市から補助金などの支援を受けたとおっしゃっていました。発災後5日間は水とチョコレートしかなく、病院も混乱していて点滴だけの対応でした。宏明さんの母も「お正月の食べ物があったから、うちはなんとかしのげた」と語っていました。

【私の想い】「今でも地震が怖い」と語る宏明さんと、宏明さんの母。この取材を通して、名古屋でも避難訓練や支援体制を改めて見直すことの大切さを感じました。そして、被災が起きることを想定しパニックにならないよう日頃から意識し続けようと思います。



実行委員第11期生/名古屋市立北山中学校2年 佐枝 里美

『輪島塗漆器 鮎井商店』さんのお話



【地震を経験して】昨年正月の火事で鮎井商店をはじめ多くの輪島塗工房が焼失し、現在は仮設の建物内で作業をされていると聞きました。自宅も被災し、昨年8月まで公民館で避難生活を送っていた鮎井さん一家は、今もなお仮設住宅で暮らしています。地震を通して、周りの人たちに助けてもらった「感謝」と、他人事ではなかったという「反省」の気持ちでいっぱいだと言います。

【復興に向けて】鮎井さんは、復興は突き詰めると政治の課題で、能登から引っ越してほしいというのが政治家の本音なのではないかと頭を悩ませていました。また、現地に住む中の人々が声をあげることに限界があり、ボランティアで現地にきた外の人にも発信してもらうことが重要だと話していました。私たちが輪島の現状を名古屋に伝え広めることの意義を改めて強く感じました。



実行委員第9期生/高校2年
中村 洸太郎

仮設の輪島塗工房の様子→



～輪島市の中学生・高校生との交流～

輪島の中高生との交流

【輪島の被害】私たちはこの交流で中学生の生の声を聞きました。家が崩壊し、がれきが道に散乱したこと。断水が長い期間続いたこと。隆起・沈降で道路が通れない場所が今もあること。経験していない私も胸が痛みました。



【交流での気づき】この交流で、輪島の中学生と能登半島地震について気づきがありました。それは「道の復旧が大切」ということです。能登半島へ続く大きな道は少なく、そこに震災が起きてしまいました。道が完全に復旧されていないことが、復興が遅れている原因なのではないかと話し合いました。

【名古屋でできること】今回の交流で、地域の特徴を理解して防災や復興を進めるべきだと深く実感しました。南海トラフ巨大地震に備え、私たちが住む地域と照らし合わせた防災に取り組みたいです。

実行委員第11期生/名古屋市立平田中学校3年 繁野 葵



輪島の中高生の本音に触れて

【被災・復興の現実】輪島の中学生から被災後の生活や復興の状況を伺い、現実の重さを強く感じました。生活には慣れたものの、変わり果てた景色や復興の遅れへの不安は続いているそうです。避難所を転々とするなど生活の厳しさも知りました。復興の遅れを「土地のせいで仕方ない」と話す生徒の姿を見て、心が痛みました。

【疑問と訴え】こうした情報が実際に訪問しないと詳しく分からない現状を、私は疑問に思っています。名古屋にいる私たちは被災地を「忘れない」こと。今回伺った現状や中学生の声を同世代に広く伝えることが重要だと考えます。名古屋市の学校でも震災について学びを深め、身近な問題として考える機会を増やす必要があります。現状を知り発信することは私たちの特別な使命だと強く感じます。



実行委員第11期生/名古屋市立大江中学校3年 今井 志歩美



輪島の中高生とつくりあげた共同作品

【オリジナルTシャツづくり】今回の輪島の中学生との交流では、名古屋と輪島をテーマにしたイラストを一緒に考え、シルクスクリーンという方法でTシャツを作成しました。話し合いの中で、輪島や能登ではイルカが有名だということを教えてもらい、地域ならではの視点に触れることができました。お互いの名物や特色について話し合い、完成したTシャツを見ながら「かわいいね！」と喜びあったことは忘れられない経験になりました。また、輪島のみんなが地元について語る時のいきいきとした表情が印象に残っています。

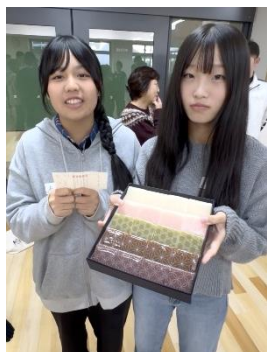


【交流を通して】たくさんの情報があふれる中で、実際に会って見聞きしながら交流することの大切さを改めて知りました。この学びを名古屋の人々にも伝え、互いを理解する機会の重要性を知ることが大事だと思います。

実行委員第10期生/高校1年 片岡 バイネア 明来



***** ~文化にふれあう~ 輪島の特産品 紹介 *****



↑名古屋のお菓子
「ういろう」



↑名古屋のお菓子
「ゆかり」



↑輪島のお菓子
「えがらまんじゅう」
黄色いもち米が載った能登地方の郷土菓子。見た目が栗の「いが」に似ており、それが訛って「えがら」と呼ばれている。



↑輪島のお菓子
「利久まんじゅう」
門前町唯一の和菓子屋として親しまれる「中西香月堂」の饅頭。地震で店は全壊したが、昨年10月に仮設店舗で営業を再開した。



↑輪島のお菓子
「いのめショコラ」
輪島市の塩を使った門前町の名産。ハート型に似ている「イノシシの目」は魔を祓い、福を招くと言われている。



←門前中学校からのキャンドルのプレゼント

門前町にある「總持寺祖院」の廃口ウソクを100%再利用。作り方は地元の門前高校の生徒からレクチャーを受けた。
★夏のサミットでも紹介されました！（6頁参照）



民宿「寅さん」にて



輪島市の中学生・高校生との交流会にて

「未来へつなぐ」ために ―輪島訪問を終えて

昨年の「チュー祭」から今年の輪島訪問に至るまで、名古屋市生徒会サミット実行委員会を代表し、輪島市の中学校の校長先生方との渉外役を務めさせていただきました、高校2年の中村洸太郎です。

まずもって、一高校生を相手にご応対くださった輪島市の中学校の校長先生各位に厚く御礼申し上げます。また、輪島市現地を訪問するにあたって、助成金の支援をしてくださった公益財団法人松島スポーツ財団様、3日間マイクロバスを貸してくださった能登島交通様、美味しいお料理を提供してくださった民宿「寅さん」様、取材に応じてくださった出張輪島朝市の皆様、交流に参加してくださった輪島市の中学生・高校生の皆さんと引率の先生方、私たちと関わってくださったすべての皆様に心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

私たちは「能登とつながる、未来へつなぐ。」というスローガンを掲げ、輪島市の中学生の皆さんとの交流に臨んできました。今回の輪島訪問では、能登半島の現状を自分の目で確かめ、中高生や地元住民の皆さんから多くの生の声を伺うことができました。この貴重な経験を通して、私たちは「能登とつながる」ことが達成されたのではないかと思います。

私たちの次の使命は「未来へつなぐ」ことです。現地でたくさんの方々からお話を伺った中で、共通していたことは「輪島の現状を外の人たちに知ってもらいたい」という生の声でした。私たちは輪島で見たこと、聞いたこと、感じたことを名古屋に伝え広める必要があります。また、昨年の「チュー祭」で生まれ、今年の輪島訪問で深まった名古屋と輪島の中高生の絆も、次の世代へとつないでいきたいと考えています。

「未来へつなぐ」のは、実行委員会の運営においても同じです。今回の輪島訪問では、参加者の半分は昨年の「チュー祭」後に活動に加わった中学生でした。このように私たちも次の世代へ活動を引き継いでいかなければなりません。私はこれをもって実行委員会の中心からは一線を退きますが、今後とも名古屋と輪島の「つながり」が未永く続いていくことを心より願っております。

2025年11月16日

実行委員第9期生/高校2年

中村 洸太郎

「名古屋の未来を熱く語り合おう！」

「名古屋市会正副議長と中学生の懇談会」 実施要項

■日 時：2025 年 12 月 26 日（金） 10:00～12:00

■場 所：名古屋市役所東庁舎 2 階 議会運営委員会室

■参加者：名古屋市会議長 西川 ひさし 様

名古屋市会副議長 さわだ 晃一 様

名古屋市生徒会サミット実行委員 高校生 4 名 ・ 中学生 10 名

■進行とタイムスケジュール：

※全体司会進行 藤澤 俐胡（中学 3 年）

※懇談会ファシリテーター 中村 洸太郎（高校 2 年）

10:00 趣旨説明 教育支援協会東海代表 本多 功

10:03 自己紹介

10:07 名古屋市生徒会サミット実行委員会 2025 年度活動報告

（名古屋市生徒会サミット 2025・輪島訪問・スクールランチプロジェクトの成果発表）

10:16 懇談会 テーマ「名古屋の未来を熱く語り合おう！」

【主な内容】

1. 防災について

- 防災訓練の現状について
- 避難所の備えについて
- 南海トラフ巨大地震への備えについて
- 学生ボランティアの参加の現状について 等

2. 未来の名古屋について

- 子育て世代が住みやすい名古屋市にするための施策
- 観光面での魅力が足りないといわれる名古屋市をどのようにアピールするか
- 名古屋市の成長と方向性 今後の名古屋市の発展の可能性とその展望について 等

11:10 名古屋市会正副議長からのご講評

11:20 記念撮影

11:30 議場見学

12:00 終了・解散

懇談会の様子

1. 実行委員会 2025 年度活動報告

懇談会に先立ち、今年度の名古屋市生徒会サミット・輪島訪問・スクールランチプロジェクトについて、名古屋市会の正副議長さんへ成果発表を行いました。

今夏のサミットでは、AIを用いた防災ソングの作曲など、今時の中学生ならではの発想にあふれていました。また、輪島の中学生とのオンライン交流や、他県の中学生のオンライン発表を通して、「全国とつながりたい!」という私たち実行委員会の目標に一步近づくことができました。

輪島訪問では、輪島の中高生と約一年ぶりに対面での再会を果たし、絆を深めることができました。また、出張朝市の取材などを通して、復興に向けて前向きに頑張る現地の方々のパワーを感じ、それらを名古屋に伝え広めていきたいと感じました。

スクールランチプロジェクトは、第2回「チュー祭」で輪島と名古屋の中学生が提案した一つのアクションプランから始まり、今夏のサミットで中学生の新しい意見なども取り入れることで、実現に向けて大きく前進することができました。また、私たちの熱い思いを伝えるべく、10月に市役所にて、教育長さんや市の担当課の方々へ向けてプレゼンテーションを行わせていただきました。



2. 名古屋市会正副議長と中学生の懇談会

《名古屋の防災訓練の現状について》

●中学生：私が輪島市へ訪問した際、輪島の中学生に「校内で行っていた防災訓練は意味がありましたか」と質問したところ、「パニックになって意味がなかった」と言っていました。私は防災訓練を街全体でも行ってみてはどうかと思っていますが、いかがでしょうか。

●議長：よく「想定外」という言葉が使われますが、地震は突然起こるもので人間に想定はできないので、「想定外」ではなく「当たり前」だという意識が必要だと思います。名古屋市でも啓発活動に取り組んでいますが、やはり実際に経験した人にしか分からない怖さもあるので、輪島でそういった体験談を聞いてきた皆さんが名古屋に伝え広めていただくというのは、非常に意義のあることだと思います。

●副議長：地域ごとの防災訓練は既に行われてはいますが、やり方も規模も地域によってさまざまです。町内会は若い人が少なくて困っているという話も聞きます。中学生の若い皆さんも積極的に参加してくれるようになると思います。



《夏のサミットで作曲した防災ソングについて》

●中学生：私たち防災班では、夏のサミットでAIを用いて防災ソングを作りました。この防災ソングは誰にでも起こりがちな防災の一場面を切り取っています。思わず共感してしまうような内容にすることで、「完璧でなくてもいいから、まず一歩」という思いを伝えたいと考えました。それでは聴いてください（※実際に音源を流しました）。サミットではAIで作曲しましたが、著作権を考慮して高校生の方にご協力いただき、後から曲を作り直しました。今後、この曲を防災の啓発活動に使っていきたいと思っています。



●副議長：防災について偉そうに言うのではなく、ちょっと背中を押してあげるように、気付きを与えるという視点はとても参考になります。例えば、名古屋市では消防団が盆踊りに来て「防災音頭」を踊るような地域もあります。防災の啓発に音楽を使おうという発想は大人も持っていますが、なかなか普及しないのが課題です。その点、この防災ソングはキャッチーな感じで、若者世代にも広がりやすいのではないかと思います。名古屋市役所は昼休みに音楽を流しているので、もしかしたらこの防災ソングも流せるかもしれません。議長と2人で工夫して掛け合ってみようと思います！



《名古屋の魅力発信について》

●中学生：名古屋は東京や大阪に比べて、他県からあまり注目されていないと個人的に感じます。他県から名古屋に人を呼び寄せるための施策はありますか。

●議長：名古屋は歴史を振り返ると織田信長や豊臣秀吉を輩出していて、名古屋の持つ潜在能力はとても大きいと思っています。例えば、東山動植物園や名古屋港水族館には全国からたくさん視察が来ます。視察が来るということは、魅力があるということです。それに気付いていないのは、実は名古屋に住む私たち自身なのかもしれません。身近な魅力に気付いていないから、発信が弱くなってしまうのかなと思います。先ほど皆さんからも「全国とつながりたい」という言葉が出てきました。そういった中学生の皆さんの新しい知恵や力もお借りして、一緒に名古屋の魅力を全国に発信できたらいいですね。

《名古屋の次世代産業について》

●中学生：名古屋は製造業が強い一方、ITなどクリエイティブな産業などで東京に人材が流出していると思います。私自身も高校から東京進学を選びましたが、名古屋への愛着は持ち続けているつもりです。しかし、将来を考えた時に地元への愛着心だけでは戻れないなと感じています。実際に戻れるかは、自分のキャリアを生かせる場が地元にあるかどうかで決まると感じています。若者のUターンには「戻りたい気持ち」そして「戻れる環境」の両方が必要です。名古屋への愛着を育む取り組みと、東京で多様な産業に触れた若者が名古屋で同等のキャリアを築けるような企業誘致や企業支援の双方を、市として進めていくお考えはありますか。



●副議長：IT系の誘致の余地はまだあると思っています、いま愛知県も名古屋市も力を入れているのがスタートアップです。その拠点が鶴舞にあって、起業して急成長をめざす企業を育てていこうという取り組みがあります。また、我々が海外視察に行くと、毎回アニメとゲームが話に挙がります。そういった人気のコンテンツ産業も名古屋に誘致していけたらと思っています。そのためにはインフラ整備が必要になっていきますが、来年のアジア競技大会ではeスポーツが公式競技になりました。これに乗じて、超高速な通信インフラを名古屋が全国に先んじて整備できるといいなと個人的にと思っています。

この他にも、中学生の気になることや聞いてみたいことについてたくさんお話ができ、とても充実した一時間となりました。

西川議長・さわだ副議長からのご講評では、「中学生の主体性と発想力に感心した」とおっしゃっていただきました。



3. 議場見学



最後に、委員会室や本会議場、議長室などを案内していただきました。多くの市では「市議会」という名称が使用されており、「市会」という名称は、戦前に「五大都市」と呼ばれた横浜・名古屋・京都・大阪・神戸の5市にのみ残る特別な呼び方だそうです。本会議場では中学生が実際に議長席や市長席に座り、名古屋市会の積み重ねてきた確かな歴史と威厳を肌で感じました。

2015年から始まったこの懇談会は、今年で10年目という節目を迎えました。名古屋市会の慣例により正副議長は毎年新しい人に引き継がれ、名古屋市生徒会サミット実行委員も毎年新たな中学生に受け継がれています。今後とも中学生と名古屋市会正副議長さんとの「つながり」が末永く続いていくことを願っています。



おわりに

「名古屋市生徒会サミット 2025」を8月17日に開催し、名古屋市から14校45名の中学生が参加してくれました。毎年応援に来てくださっている寺脇研先生からは「始めたころはみんな制服だったね。12年の歳月を感じるね。」「熟議の内容も年々進化しているね。」とご講評をいただきました。一例として防災ソングを作詞して、AIを使って曲を作り、防災の啓発をするといったアクションプランもあり、まさに時代の流れを感じます。さらに、AIの作曲では著作権にかかるかもしれないと、SNS発信のリテラシーも学んで、後日改めて作曲をするといった徹底ぶりにも感心させられました。

また、今回は「つながり」～全国とつながろう～をテーマに、キックオフとして輪島市交流の他にも参加協力を依頼し、福島県から2校、神奈川県から1校の中学生が発表を行ってくれました。その発表は、3校とも非常に高度でした。福島県の2校は、身近な課題解決のための過程の実際と未来に向けた具体的な実践計画を。神奈川県の1校は世界に目を向けた課題の抽出と「自分はどのようなのか」という提案をプレゼンしてくれました。参加の名古屋市の中学生たちは大きな刺激を受けたようです。参加してくれた5名の中学生のみなさんに心よりお礼申し上げます。これからも名古屋市生徒会サミットは、「つながり」の輪を広げていきたいと思っています。

2013年から12年、名古屋市生徒会サミットは志の高い子どもたちがその灯を絶やすことなく継続しています。今回は、45名の参加者の中から名古屋市生徒会サミット実行委員会に11名の中学生が加入してくれました。この報告書をまとめてくれた高校2年生の実行委員をはじめとする先輩たちに憧れて加入してくれた中学生もいます。

これからも名古屋市生徒会サミットは、主体性と利他の精神を持ち、地元名古屋を愛し、名古屋の未来に貢献できる真のグローバルリーダー育成を行ってまいります。多くの皆さまのご声援をよろしくお願い申し上げます。

2026年1月吉日

NPO 法人教育支援協会東海 専務理事

名古屋市生徒会サミット担当

西尾 真由美



編集後記

私が2023年に実行委員会に加入してから、早くも2年以上が過ぎました。2024年の「チュー祭」、そして2025年の「名古屋市生徒会サミット」および「輪島訪問」を経て、2年間の活動の集大成としてこの言葉を記します。

私が実行委員会に加入したきっかけは、2023年夏のサミットに当時中学3年で参加し、「熟議」の魅力に惹かれたことです。初めて会った他校の中学生と一緒に、何の縛りもなく自由にアイデアを交わし、アクションプランを作成したあの時の高揚感や達成感は、今でも忘れられません。その後、高校生実行委員として、今度は場をファシリテートする役割を担う中で、「熟議は生もの」という言葉を教わりました。すなわち、そのアイデアを煮るもよし、焼くもよし——熟議は無限大の可能性を秘めているということです。私はファシリテートをする際、いつもこの言葉を心に留めています。名古屋市生徒会サミットは、中学生が自由に斬新なアイデアを生み出し、主体的に活動を行える場であり、その主役はもちろん「中学生」です。高校生には、後輩の中学生がかつての自分と同じような経験を得られるよう、環境を整える役割があると考えています。

実行委員会の発足から10年が経ち、主体的で持続可能な組織体制も確立しつつあります。第2回「チュー祭」の準備にあたり、2024年春に6名の高校生実行委員で「連携担当班」を立ち上げました。チュー祭では多くの実行委員がそれぞれの役割を担うため、全体の団結が弱まらないように、各班の進捗共有や共通認識の形成などを行うことが目的でした。この連携担当班は、2025年春に5名の新高1生を迎え入れ、チュー祭後も実行委員会の中心として、2025年夏のサミットの企画運営や輪島訪問の準備などを精力的に行ってきました。2026年春には、高校受験を終えた新高1生をまた新たに迎え入れることと思います。こうして、名古屋市生徒会サミットの活動は次の世代へと受け継がれていくのです。

私は大学生になっても、この実行委員会での活動を続けていきたいと思っています。私はかねてより教育学に興味があり、大学生実行委員として中学生・高校生の活動をサポートする傍ら、「学校外における中学生の主体性を育む取り組み」についてを自らの研究テーマとしたい、という夢があります。私の進路選択に大きな影響を与えてくれた名古屋市生徒会サミットは、まさに私の「人生」そのものです。

今後とも名古屋市生徒会サミットの活動がますます発展していくことを心より祈念しております。

2026年1月吉日
実行委員第9期生/高校2年
中村 洸太郎

主催・共催・後援・助成・協力 一覧

名古屋市生徒会サミット 2025

■主催：NPO 法人教育支援協会東海

■共催：名古屋市教育委員会

■後援：名古屋市立小中学校校長会

名古屋市

公益社団法人名古屋青年会議所

輪島訪問

■主催：NPO 法人教育支援協会東海

■助成：公益財団法人松島スポーツ財団

名古屋市会正副議長と中学生の懇談会

■主催：NPO 法人教育支援協会東海

■協力：名古屋市会事務局

お問い合わせ先
<p>NPO 法人 教育支援協会東海 代表理事 本多 功 専務理事 西尾 真由美</p> <p>名古屋市西区南川町 297 番地 TEL 052-505-4900 FAX 052-506-9078 E-mail info@kyoikushien-tokai.org URL http://kyoikushien-tokai.org</p>

